

2022年1月27日

2022年度 野球規則改正

日本野球規則委員会



- (1) 3.09【注3】③の第2段落を次のように改める。(下線部を追加)

マーク類を布片、刺繍または樹脂製の成型物、あるいはスタンプによって表示する場合(エナメル素材のように光る素材での表示は認められない)は、親指のつけ根に近い個所に限定し、その大きさは、縦3.5釐、横3.5釐以下でなければならない。

- (2) 5.07(a)(1)【注1】を削除し、同【注2】を同【注】とする。

- (3) 5.07(a)(2)【注1】を削除し、同【注2】以降を順次繰り上げる。

- (4) 5.09(b)(1)【注1】および【注2】を削除する。

- (5) 6.01(a)(1)の最終段落として次を追加する。

もし、捕球されずに本塁周辺にとどまっている投球が、打者または審判員によって不注意にそらされた場合、ボールデッドとなって、塁上の走者は投手の投球当時占有していた塁に戻る。この投球が第3ストライクのときは、打者はアウトになる。

- (6) 6.01(i)を次のように改める。

- ① 【6.01i原注】を追加する。

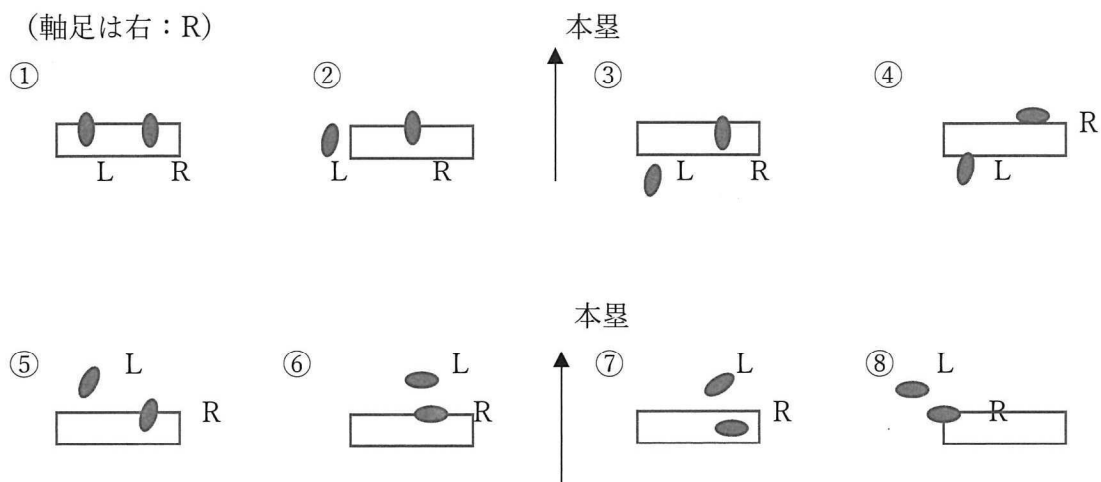
【6.01i原注】 本項の「捕手」については、本塁のカバーに来た投手を含む野手にも適用される。

- ② 同(1)本文中の「または本塁のカバーに来た野手(投手を含む、以下「野手」という)」と、同(1)および同(1)【原注】中の「または野手」を削除する。

- (7) 巻頭(13ページ)の「投球姿勢」を改める。

以上

投球姿勢
(本文 5.07a1;同 a2 参照)



1. 走者がいないとき

- ①～⑧のいずれもwindアップポジションとして投球することができる。
(軸足が投手板に触れてさえいれば、自由な足はどこに置いてもいい)

2. 走者がいるとき

- (1) ①～⑤はwindアップポジション。
(2) ⑥～⑧は軸足を投手板に並行に触れ、自由な足を投手板の前方に置いているのでセットポジション。